

会計仕訳票の手書き OCR 化

本店 情報システム部

<要旨> 経理システムでは、会計仕訳票の入力手段として、昭和43年運用開始当初から紙テープさん孔処理を実施してきたが、近年、処理データの膨大化、締切日近くの業務量の集中による、さん孔業務の増大等の問題が生じ、入力手段の代替が望まれていた。その代替案として、技術水準の向上がめざましい手書きOCRの採用を、経理部と共同で検討してきたが、この度その実用性が検証されたので、昭和58年10月から、本店、名古屋支店において本格実施に入ることになった。ここに、その概要を紹介する（全社拡大は昭和59年4月）。

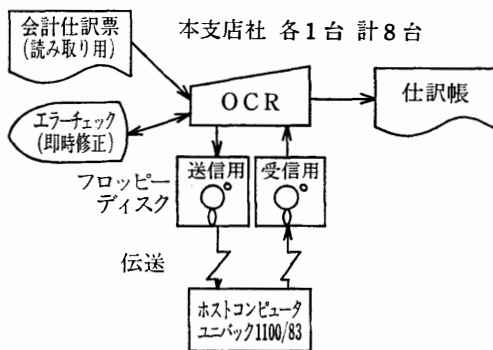
1 手書きOCRとは

OCR（光学式文字読取装置）は、帳票上に書かれた手書き文字、スタンプ文字などを光学的に読み取り、コンピュータ入力情報に変換するデータインプット装置である。

2 手書きOCR処理システムの概要

手書きOCRによる処理のプロセスを第1図に示す。このシステムは、次の3つのサブシステムから構成されている。

- (1) 帳票読み取り処理
- (2) オンライン処理
- (3) 仕訳帳プリント処理



第1図 処理概要

会計仕訳票の直筆、スタンプ文字を直接OCRで読み取り、文字認識後、フロッピーディスクに書き込み一括してホストコンピュータへ伝送する。ホスト側では、データを累積し仕訳帳に編集して、その結果を送信側へ伝送する。送信側ではいったんフロッピーディスクに受信した後、そのプリントを行う。

3 手書きOCRの実用性

手書きOCR化に当たっては、次の条件のもと

で、読み取り精度、速度、運用面での実用性を検証した。

- (1) 一般ボールペンの使用
- (2) OCR用ゴム印の使用
- (3) ノーカーボン55kg用紙の使用
- (4) 不特定多数による伝票発行
- (5) 専門のオペレータによらないOCR操作
- (6) ホストコンピュータとのオンライン接続
- (7) 文字教育の実施

このため昭和58年4月から会計仕訳票をOCR用に切り替え、紙テープさん孔と並行して、OCRの読み取りテストを行った。その結果、次の項目を改善することにより、十分実用が可能であることを確認した。

- (1) OCR用標準文字の教育の徹底
- (2) 筆記用具の限定（指定ボールペンの使用）
- (3) OCR読み取り辞書のバージョンアップ
- (4) OCR読み取り感度の調整

4 効果

手書きOCR化による効果は、次のとおりである。

- (1) 増大する業務量の吸収
- (2) 業務量の均平化による増分人件費の抑制
- (3) 処理の迅速化

読み取り速度 10~13枚/分

（紙テープさん孔時の6~7倍）

データ伝送による輸送時間の短縮

ターンアラウンド時間の短縮

- (4) 専任オペレータの排除

（事務システム課）